

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 鈴木 実佳子

論 文 題 目


Development and validation of an illustrated questionnaire to  
evaluate disabilities of the upper limb

(イラスト付き上肢機能障害評価票の開発と検証)


論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授

委 員 石 黒 直 樹 

委 員 濱 嶋 信 之 

委 員 亀 井 讓 

指導教授 名古屋大学教授 平 田 仁 

## 論文審査の結果の要旨

患者立脚型の上肢機能障害評価票として広く使用されている The Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (DASH) は質問項目が難解で生活様式が欧米と異なる日本では使用しにくく、推奨年齢が 18 歳から 65 歳に限られているため高齢者の評価には向いていない。今回新たに 20 項目の短文で構成され、イラストを添付して質問内容を理解しやすいよう工夫した上肢機能障害評価票 Hand20 を開発し、その妥当性を日本語版 DASH と比較検討した。

Hand20 は標準化された手法を用いて開発され、20 項目のうち 19 項目にイラストを添付した。上肢疾患患者 431 名を対象とし Hand20 と日本語版 DASH に回答してもらい信頼性、妥当性を検討した。また観血的治療を行った 157 人は手術前後に同様に二つの質問票に回答し、反応性を評価した。施設に勤務する 2600 人にアンケートを配布し、回答が得られたうちの上肢機能障害のない者 888 名から Hand20 の基準値を定めた。

Hand20 は DASH に比べて有意に評価不適例が少なく、特に高齢者でその差が大きかった。信頼性は Cronbach の  $\alpha$  係数と級内相関係数を求め、妥当性は同時的妥当性、基準関連妥当性を検討し、いずれも日本語版 DASH と同等であることが示された。反応性は中等度であった。Hand20 の基準値は 1.2 であった。

世界中で広く使用され妥当性も評価されている DASH であるが下肢機能に関連する質問項目もあり、文章が長く難解で高齢者の評価には向かないとされる。今回の研究でもそれが裏付けられる結果となった。年齢を問わず使用できる上肢機能障害評価票は有用であり、Hand20 は高齢者にも使用できることが示された。

Hand20 の基準値は 1.2 でありデータの非正規性から厳密な比較はできないものの DASH よりも低い値となっている。基準値が小さいことにより治療前後のわずかな変化をとらえることができると考えている。

今回開発した Hand20 は日本語版 DASH と同等の信頼性、妥当性を有し、幅広い年齢に使用できる上肢機能障害評価票である。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するのに相応しい価値を有するものと評価した。